

受給者：野本実来

所属：上智大学大学院博士前期課程 グローバル・スタディーズ研究科 国際関係論専攻

研究課題：ハワイの有機農園が地域活性化に果たす役割

－ 有機農業におけるハワイ先住民の文化や価値観との関係性 －

研究背景および研究意義

一部の多国籍アグリビジネス企業が農業市場の富の独占し、生産から消費までのプロセスをコントロールすることで、地域内で生産から消費までの循環を支える機能が低下した。ローカル・フードシステムを構築し、経済的・環境的・社会的に持続可能な農業や食料生産を実践することで、農や食に地域社会や自然とのつながりを取り戻すことが可能であり、世界各地で地域と連携した農園ビジネスが行われている。また、地域密着型の農業は、地域内での雇用を促進し、地域活性化を促すことを可能にすると言われている。ハワイでは、食料自給率の向上に加え、地域活性化に向けた先住民の食文化の促進を目的に行われているため、地産地消を通じた伝統継承を分析する上で優れた調査地であると考えている。

本研究では、ハワイの有機農園が地域社会に果たす役割に着目し、地域資源を活かしたビジネスの可能性を明らかにする予定である。

フィールドワークで得た成果

2025年1月8日から1月20日までハワイ州オアフ島にてフィールドワークを実施し、インタビュー調査と資料収集を行うことで、地元の農園と地域社会のつながりに関する理解を深めることができた。

MA Farm、Kahumana Organic Farms と Mohala Farms に訪れ、それぞれの農園関係者に農園の活動について説明していただくことで、伝統的価値観や食文化を含む地域資源を利用したビジネスモデルや取り組みに関する理解を深め、農園が果たす地域活性化への役割を確認することができた。また、ビジネスと地域貢献を両立することの難しさについて話していただいたことで、農園の存在意義を確認することができた。経営よりも地域の人々に寄り添った農園であり続けることを大事にしているインタビューアーの思いを聞かせていただいたことは、ソーシャルエンタープライズの観点から農園が地域に果たす役割を分析する上で、大きな意義がある。

また、ファーマーズマーケットの運営者にインタビューをさせていただいたことで、低所得層に向けた販売アプローチについての理解を深めることができた。SNAP プログラムの受取人が低価格で購入する代わりに、地元の銀行が差額分を負担して農家にも損益が発生しない仕組みを持つことで、低所得層に対する健康的食生活の促進を行っていることを知った。第三の支援アクターが増えることでローカル・フードシステムの機能性を高める

ことができることに気づいたことは、論文執筆において大きな意義となる。

ハワイ大学の図書館 Hamilton Library 内に所属する The Hawaiian and Pacific Collections での文献調査では、1991年に地元のシェフによって始まったハワイ・リージョナル・キューズが発端となり地元の野菜や果物への需要増加であることが確認できた。

今後の研究について

現在は、これまでの調査を踏まえ、資料のさらなる収集と構成の具体的な検討、インタビュー項目の精査を進めているところである。今後は、ビジネスの観点を踏まえてハワイの有機農園が地域社会に果たす役割を分析し、ソーシャル・エンタービジネスが地域活性化を促す可能性について明らかにしたいと考えている。そのために、まずは農園のビジネスの特徴を精査する予定である。また、今回お世話になった方々にさらにオンライン上で聞き込み調査を行い、研究を進めていく予定でいる。